

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第16週（4月13日～4月19日）

今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」

第16週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,744例であり、前週比19.4%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.32、2.49、0.78、0.31、0.22である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比10%増の973例で、北河内9.73、中河内6.42、南河内6.33、三島5.76、豊能4.95であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は63%増の455例で、中河内4.53、北河内3.95、大阪市南部3.41である。全11ブロック中、10ブロックで前週より増加していた。

RSウイルス感染症は31%増の143例で、大阪市北部1.92、北河内1.64、中河内・南河内1.00であった。

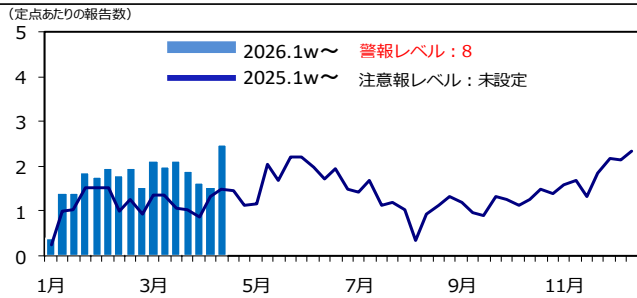
咽頭結膜熱は増減なしの56例で、南河内0.87、中河内0.63、北河内0.45である。

水痘は28%減の41例で、大阪市東部0.58、大阪市北部0.38、北河内0.27であった。

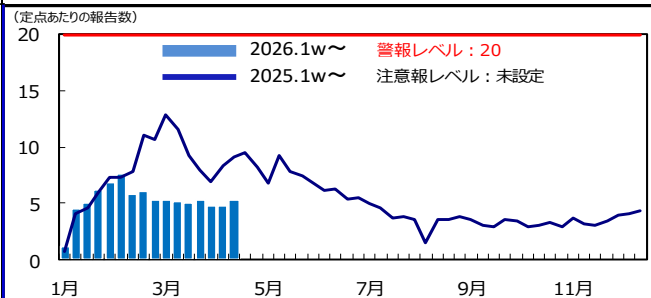
新型コロナウイルス感染症は5%減の100例で、定点あたり報告数は0.35である。中河内0.62、南河内0.52、大阪市東部0.50、北河内0.44、大阪市北部0.40であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は24%増の10,241例で、定点あたり報告数は35.68である。南河内53.09、北河内44.42、中河内42.83、堺市37.88、大阪市北部36.70であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第16週4月13日～4月19日）

第16週の順位	第15週の順位	感染症	2026年 第16週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第16週の 定点あたり 報告数	2026年第16週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.32	10%増	9.18	1歳_19%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.49	63%増	1.49	5歳_18%
3	3	RSウイルス感染症	0.78	31%増	1.02	1歳_49%
4	5	咽頭結膜熱	0.31	増減なし	0.31	1歳_27%
5	4	水痘	0.22	28%減	0.25	10-14歳_22%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.35	5%減	1.11	1-4, 5-9歳_21%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	35.68	24%増	39.49	1-4歳_43%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第16週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2025年の大阪府の報告数は、速報値で10例であった。

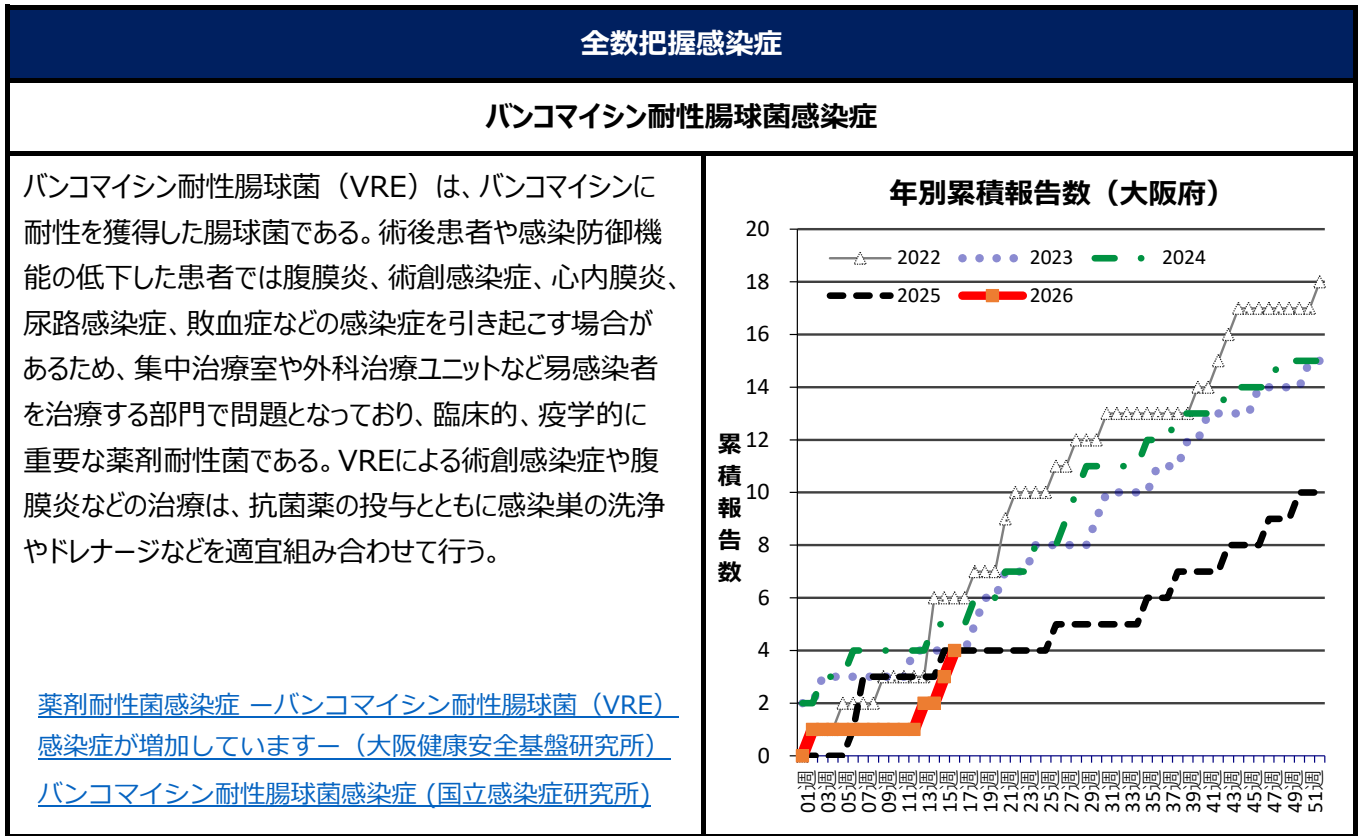


表2. 大阪府全数報告数（2026年 第16週4月13日～4月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内								府内累積報告数
		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	2		1						1	19
4類感染症 レジオネラ症（肺炎型）	1								1	36
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	1		1					28
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1	14
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		1				1	2	86
	水痘（入院例）	3							3	18
	梅毒	20	1	3	3	1		2	10	339
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1							1	4
百日咳	4	1		1				1	116	
結核 (2026年2月分)	結核 新登録患者数：56名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 23名) (府内累積報告数 149名、内 肺・喀痰塗抹陽性 56名)									

(2026年4月21日 集計分)